

学術研究船「白鳳丸」



運用主目的	学術的な海洋観測調査
竣工年	1989 年
全長 × 幅 × 深さ	100 × 16.2 × 8.9 m
満載喫水	6.3 m
国際総トン数	4,073 トン
巡航速力	12 ノット (最大 16 ノット)
乗員(うち研究者等)	89名 (35名)
推進方式	ディーゼル推進 / 電気推進
推進装置	可変ピッチプロペラ × 2軸

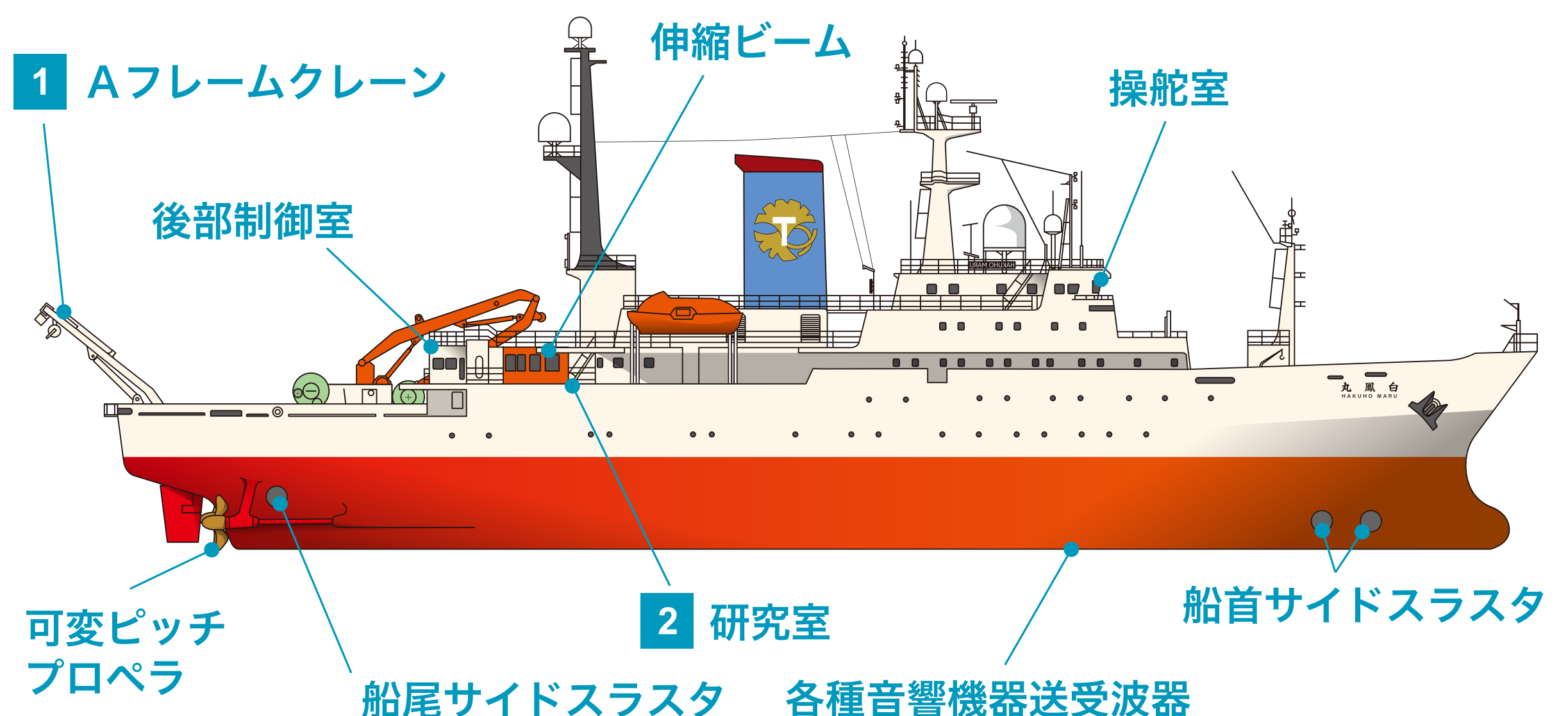
世界中を広範囲で長期航海できる船

「白鳳丸」は、2004 年の独立行政法人海洋研究開発機構の発足にともない、「淡青丸」(2013 年退役)とともに東京大学海洋研究所(当時)から移管されました。大気海洋科学分野において、全国の研究者のための共同利用船として海洋調査を行っています。さまざまな観測機器と多くの観測ウィンチを備え、海中だけでなく、海底下や大気までを調査対象とした幅広い海洋観測を行うことができ、日本近海、太平洋、大西洋、インド洋、地中海、極海など世界中の海で 30 年以上にわたって多くの研究者と学生を乗せて観測を続けています。

主要設備

1 Aフレームクレーン

生物採集ネットや採泥機器による試料採取、観測機器類の投入・揚収に使用しています。



2 研究室

10 室ある研究室のうち、第 7 研究室は採取した海水の処理や地質試料の切断などウェットラボとして使用できます。第 5 研究室や第 6 研究室は、化学分析や微生物処理を行うことができます。また、第 3 研究室には CTD や、SBP(サブボトムプロファイラ)などの観測データを受信する船上局があります。

